



# 魔法の文学館 (江戸川区角野栄子児童文学館)



11月3日、江戸川区の「なぎさ公園」内に「魔法の文学館」がオープンしました。「魔法の宅急便」の作者として知られる児童文学作家・角野栄子さんの世界観をイメージした館内には、角野さんが自ら選んだ児童書約1万冊が並び、自由に読めるようになっていきます。映像シアター、ギャラリー、カフェなど、読書以外の楽しみも満載の児童文学館にぜひお越しください。

## ◆『魔法の宅急便』作者・児童文学作家角野栄子さんの世界観を表現

### 国際アンデルセン賞受賞が文学館建設のきっかけに

角野さんは幼少期から20代前半までを江戸川区北小岩で暮らし、「幼い頃に見たり感じたりした江戸川区の風景はいつまでも忘れることなく、その体験や情景が時に作品に表現されている」と語り、ふるさと江戸川区への想いを今も大切にされています。

平成30(2018)年に児童文学の小さなノーベル賞ともいわれる「国際アンデルセン賞・作家賞」を受賞され、区はこの偉業を称えて「区民栄誉賞」を創設し、最初の受賞者として表彰しました。

角野さんの偉大な功績を多くの方々

に知っていただくとともに、未来を担う子どもたちがその世界観を享受できるように施設をつくらうと、児童文学館建設構想がスタートしました。

### 「魔法の文学館」基本構想に掲げた3つの機能

「魔法の文学館」は、「角野栄子さんの偉大な功績とその物語の世界観を区の誇る文化として継承し、児童文学の素晴らしさを発信していく」「子どもたち自身が自由に『本』と親しむ場をつくる」「イベントや体験を通して、子どもたちの想像力と創造力を育む場にする」を施設の目的としています。基本構想ではこれらの目的を果たすため、大きく分けて、①角野栄子さん

の功績を称える機能、②「児童文学」に親しむ機能、③想像力や創造力を育む体験機能という3つの機能があります。具体的には、角野さんの経歴や資料などの紹介、子どもたちが自分の意思で本を選んで自由に読める空間づくり、児童文学作品に関連した企画展示や各種イベントの開催などを行います。



左から、隈研吾さん、角野栄子さん、斉藤猛江戸川区長



角野さんの代表作

## 自然豊かな「なぎさ公園」 展望の丘」に建設

「魔法の文学館」が建つ「なぎさ公園」は、総合レクリエーション公園の東端に位置し、近くを旧江戸川が流れ、四季折々の花が咲き、樹木と芝生の緑が美しい自然豊かな公園です。いくつかの建設候補地の中から、角野さんの希望により選ばれました。当施設の建設にあたり、既存の樹木や施設を活かしながら、一部を改修し、角野作品の世界観と自然が調和するような公園づくりを行いました。

建物のある小高い丘は、もともとあった草地広場の「展望の丘」で、丘の上からは旧江戸川が望めます。建物の前庭となる「ものがたりの丘」には、「本を読んだり、絵を描いたり、そこで出会う人との会話ができるように」との角野さんの思いが込められており、1人でもグループでも座れるロングベンチや斜面と一体化した滑り台などを配置しています。また、屋外でも本が読め、待ち合わせや休憩の場としても活用できるテラスを整備しました。

## 隈研吾氏が設計を担当した 純白の花びらのような建物

建物は、隈研吾建築都市設計事務所が設計を担当しました。建築コンセプトは「丘の一部として建築・造園・展示が一体的につながる『ものがたりの世界』」。建物も、室内だけで完結する閉じた箱ではなく、周囲の景観と調和しつつ、外と中をつなぎ、子どもたちの想像力と創造力が膨らむような工夫がされています。

最も特徴的なのは、花びらが広がるようなデザインの「フラワールーフ」と名付けられた屋根。真っ白な花が丘に咲いたような、軽やかで華やかな印象です。外装の色は無垢な白いキャンパスのようなニュートラルホワイト。四季折々に変化する公園の自然環境に溶け込みます。また、出入口部分は内外の見通しをつくる「おおきな窓」にして、気軽に入りやすいアプローチに。大きさや高さが違う「しかくい窓」は、風景を切り取るピクチャーウィンドウとしても機能しています。



フラワールーフが特徴の外観



「展望の丘」で好きな本を読むことができる

### 魔法の文学館・角野栄子館長メッセージ

この度、私の大切な思い出の地、江戸川のほとりの公園の中に、角野栄子児童文学館ができました。本当にうれしく光栄なことです。この文学館を訪れたみなさんが、幼い日の私のように、心をときめかせ、わくわくする時間をすごしてくださいように！ 不思議な色のコリコの町を歩いたら、次は自分の好きな本を選んでください。あなたが手にした本の中に、たくさんの冒険と不思議が詰まっています。

「本をひらけば たのしい世界！」

この文学館が、皆さんの大切な思い出になりますように。

思い出は一生の宝物。未来を生きる力です。



#### プロフィール

1935年東京生まれ。3歳から23歳まで江戸川区北小岩で過ごす。出版社勤務を経て24歳からブラジルに2年間滞在。その体験を元にした『レイジンニョ少年 ブラジルをたずねて』で、1970年作家デビュー。代表作『魔女の宅急便』は1989年にスタジオジブリ作品としてアニメーション映画化された。2018年児童文学の「小さなノーベル賞」と言われる国際アンデルセン賞作家賞を受賞。翌年、江戸川区区民栄誉賞を受賞。

# ◆『魔女の宅急便』

## 館内はいちご色の世界が広がる「コリコの町」

館内に入ると、『魔女の宅急便』の舞台「コリコの町」をイメージしたいちご色の世界が広がります。いちご色は角野さんのテーマカラー。アートディレクター・くぼしまりおさんが内装デザインを手がけ、壁面はもちろん本棚やソファなどもすべていちご色に統一しています。エントランスで最初に出会うのは、大きなモニターに映し出されたウエルカム映像。角野さんの挨拶に合わせて壁一面にプロジェクトクションマッピングが現れ、魔女のキキと黒猫のジジ、食いしん坊の小さなおばけアッチ、リンゴちゃんなど、角野さんの物語のキャラクターたちが登場します。また、壁面に小さな仕掛け扉をいくつも設け、扉を開けるとキャラクターが現れて物語の世界に誘うなど、来訪者の想像力をかきたてる工夫をしています。

ライブラリーは1階と2階にあり、角野さんの著作と角野さんが自ら選んだ国内外の児童書や絵本約1万冊を、

# の舞台となった町をイメージした館内で本に出会う

あえて分類せずに配架しています。子どもたちは自由に本を選び、ソファに座ったりカーペットに寝そべったり、1階と2階をつなぐ大階段に座るなど、好きな場所でゆっくりと読むことができます。本の貸し出しは行っていないが、持ち出しの手続きをすれば、2階のテラスや公園の芝生の上など、館外に出て読むこともできます。

## 物語のキャラクターと対話できる「黒猫シアター」

館内にはライブラリーのほかにさまざまなコーナーがありますが、一番人気は大階段下の「黒猫シアター」。隠れ家のような空間は4面映像シアターで、参加者がキャラクターと対話しながら物語が進行していくインタラクティブなプログラムが体験できます。おばけのアッチやリンゴちゃんなどのキャラクターが登場する参加型のプログラムは4種類あり、順次入れ替わります。角野さんが江戸川の土手などを背景に著作の読み聞かせをするプログラムも9本ほどあり、訪れるたびに違ったものを楽しめます。1つのプロ

グラムは約10分間。定員約20人で、入れ替え制になっています。

## 「栄子さんのアトリエ」と「ギャラリー」の企画展示

2階には角野さんの仕事場を模した「栄子さんのアトリエ」があります。デスクの上には作品原稿や絵の具などの文房具が置かれ、棚には愛読書や旅先で集めた美しい小物が並んでいます。カラフルでおしゃれなファッショ

ンが評判の角野さんの洋服の展示、NHKのEテレで放映中の『カラフルな魔女』を再編集した映像の上映も行っており、角野さんのお人柄や世界観に触れていただけます。

アトリエの隣には「ギャラリー」があり、ここでは児童文学に関する企画展を半年ごとに開催。第1回は角野さんが世界各地から集めた魔女人形コレクションを紹介する「魔女まじよ展」で、来年4月8日まで開催しています。



黒猫シアター



栄子さんのアトリエ



大階段に座って本を楽しむことができる



コリコの町の本棚

## 読書のあとに立ち寄りた カフェとショップ

本を読んでおながすいたら、3階にある「カフェ・キキ」へ。いちご色の世界とは違った大人の雰囲気漂うカフェは、旧江戸川を一望できる見晴らしの良い空間になっています。角野さんの作品に登場するメニューをモチーフにしたスペシャルメニューなど、ここでしか味わえないメニューがそろっているのです。「魔法の文学館」の世界観に浸ったあとのカフェタイムにぴったりのです。スペシャルメニューには卵を使用しないオムライス「キキライス」、ハート形のいちご味のムースケーキにアイスクリームとフィヤンティーンを添えたパフェ「ハートをあなたに」などがあります。

## 区民先行内覧会と 区民向け開館記念イベント

「魔法の文学館」オープン前の10月21日、22日、25日、29日の4日間、区民先行内覧会を実施しました。募集開始から40分ほどで定員に達してしまっただほどの人気で、来場者からは「とても楽しい施設なので、ママ友に紹介したい」「とても良い空間の中で読書がゆっくり楽しむことができる」など、うれしい反応も。また、いちご色の空間の中で手作りのコスプレで来館し、写真を撮る方も多くいらつしやいました。10月28日には区民を対象とした開館記念イベント「リーディングミュージカル」を上演し、こちらも250人募集のところ約7000人応募という人気のイベントとなりました。

海外にも多くのファンをもつ角野栄子さんの児童文学館が、国内はもとより、世界中の子どもたちに来ていただける施設になり、「江戸川区といえど『魔法の文学館』がある」と沢山の人が言っていただけのような、区の魅力発信の中心になることを願っています。

## 魔法の文学館アクセス

魔法の文学館

(江戸川区角野栄子児童文学館)

住所: 江戸川区南葛西 7-3-1 なぎさ公園内

電話: 03-6661-3911

開館時間: 9時30分～17時30分(最終入館16時30分)

休館日: 火曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

入館料: 一般(15歳以上)700円(500円)、

子ども(4歳～中学生)300円(200円)※〈 〉内は江戸川区在住者、

在勤者、在学者の割引料金です。

入館方法: 日時指定の事前予約制が基本となっております。



【交通案内】

●東京メトロ東西線「葛西駅」から都営バス〔葛西21〕にて約10分「魔法の文学館入口」下車徒歩5分、都営バス〔葛西24〕にて約10分「なぎさニュータウン」下車徒歩5分

●JR京葉線「葛西臨海公園」から都営バス〔葛西21〕にて約10分「魔法の文学館入口」下車徒歩5分



エントランスサイン



見晴らしの良い空間でスペシャルメニューが味わえる「カフェ・キキ」



角野さんの作品をもとにデザインしたラッピングバスも運行中



約100点のオリジナルグッズが並ぶショップ